



16 DAYS OF ACTIVISM AGAINST GENDER-BASED VIOLENCE
16 DÍAS DE ACTIVISMO CONTRA LA VIOLENCIA DE GÉNERO
16 JOURS D'ACTIVISME CONTRE LA VIOLENCE DE GENRE

16 يوم من مكافحة العنف القائم على النوع الاجتماعي

25 November – 10 December

<http://16dayscwgl.rutgers.edu>



2015 年度のテーマ発表

「家庭の平和から世界の平和へ：すべての人が安全に教育を受けられるように」

2015年、女性のグローバル・リーダーシップセンターが1991年に開始した「ジェンダーに基づく暴力に対抗する16日間キャンペーン」は24年目を迎えます。このキャンペーンには、180を超える世界の国々から、5,478を超える団体、政策立案者、政府、国連機関に加え、数えきれない個人が参加しています。私たちは参加者のみなさんと一緒に、人種差別、性差別、暴力の文化、同性愛嫌悪の問題を取り上げ、また健康への権利や性と生殖に関する権利を含む人権の実現、軍国主義やジェンダーに基づく暴力の終焉を求めてきました。このキャンペーンが長期間、力強く続いているのは、みなさんのような何千人もの参加者のおかげです。

今年の16日間キャンペーンでは、軍国主義と教育への権利の関係を上げます。私たちと権力の関係によって生じる差別や、不平等のもととなる家父長制を軍国主義と関連づけながら、武力紛争下はもちろん、比較的平和な場所、そして様々な教育現場における教育への権利について考えます。

教育は、1948年に採択された世界人権宣言第26条において公益かつ基本的人権であると認められており、多くの国際的な、または地域内の、人権に関する協定や条約でも確認されています。しかしながら、教育への権利は、政治的、経済的、また社会的な変動や騒乱に影響されやすく、特定のグループ(特に女性、少女、障害のある人々、LGBTQI、移住者や先住民)は、とりわけ脆弱な立場に立たされ、この必須の権利を否定されがちです。近年の統計では、世界の約3,800万人が国内避難民¹、約1,670万人が難民です²。中でも少女や若い女性は、危険や危機によって、最も深刻な影響を受けています。また、3,100万人の少女が初等教育を、3,400万人の少女が中等教育を受けられず³、1,500万人の少女と1,000万人の少年が、一生教室で授業を受けられないと推計されています⁴。学齢期に達している5,800万人の子どもが教育にアクセスできず、その約半分にあたる2,850万人は紛争下で暮らしています。

紛争下における教育への権利を守ることができるかどうかは、中央政府や国際社会の支援とコミットメントにかかっていますが、実際にそれらを得ることは困難です⁵。教育への権利は、多くの場合、脆弱な環境に影響されがちです。危険で不衛生な教育環境、固定的で家父長制的なジェンダー概念を含んだ不十分なカリキュラム、教育の提供や教育へのアクセスのための限られた資金の分配などがそれに含まれます。専門家は2015年末までにすべての人が初等教育を受けられるようにするには260億ドル不足していると指摘していますが⁶、2014年の世界の軍事費は1兆8000億ドルでした⁷。いずれの性の子どもや若者も、障害、人種、民族などの出自、武力紛争下や自然災害後、また比較的平和な時期でも直面する経済的困難、家族や社会の圧力に直面しています⁸。少女が体験する不利益は、とりわけ深刻です。少女や若い女性は、彼女たちの教育を短期間で閉ざし得る早婚や強制結婚による不安に直面しています。学校に行く途中や学校での性暴力や虐待、十分でかつ安全に利用できるトイレなど不可欠な設備がないために起きる差別など、学校と関連するジェンダーに基づく暴力は彼女たちにとっての脅威です。その結果、多くの家庭が少女や若い女性を学校から遠ざけ、教育を受け続けることを故意に妨げています⁹。

このような教育に対する危険や安全の欠如に鑑み、また年初に実施した調査の結果も考慮した上で、16日間キャンペーンの国際テーマを「家庭の平和から世界の平和へ：すべての人が安全に教育を受けられるように」とします。このテーマは、暴力や財源不足、差別によって、何百万もの少女、少年そして若い女性と男性の普遍的人権である教育への権利が日々影響を受け、閉ざされてしまう状況を扱います。少女、少年、若い女性そして男性の教育に関する危うい現状に注目することが、今年の16日間キャンペーンにおける私たちの義務です。

この世界的なテーマの下、16日間キャンペーンは、みなさんが教育への権利の推進と、ジェンダーや人種、民族、宗教、現実もしくは思い込みによる性的指向、社会的・経済的地位やその他の社会的なアイデンティティを理由とする暴力や差別、不平等への対抗にともに参加することを求めます。あなたのコミュニティや国、地域において、教育はどこで行われ、教育へのアクセスはどうなっているのか考えてみましょう。参加するにあたって、平時であれ、紛争下であれ、難民または国内避難民のキャンプであれ、先住民地域や学校、その他の教育現場や路上であれ、軍国主義が教育に与える影響について考えることから始めてみましょう。暴力と加速する軍国主義が、近年さまざまな武力紛争を経験した国々の若者の教育に対していかに影響を与えたか、国家と非国家の政策や慣習を通して、過激主義はどのように教育への権利、とりわけ少女の教育への権利に影響を与えたか、そして政府の軍事支出や軍事優先の政策が、すべての人びとにとって安全でかつ享受しやすい教育を可能にするための資金配分に影響を与えたのか考えてみてください。

16日間キャンペーンの参加者が取り上げることができる他の課題の例は？

- 教育とジェンダー正義: 女性と少女に対する構造的差別の影響
- 和平交渉、平和構築、外交や意思決定の場における女性の役割
- コミュニティや学校における小型武器による暴力と、親密なパートナーが小型武器を使用した暴力
- グローバルな規模での武器の製造・販売、軍国主義の台頭と、公衆衛生や、教育、その他の社会貢献への支援
- 教育への権利に影響を及ぼす学校やその他の場所での国家もしくは非国家主体による暴力
- 生徒や若者に対する性的暴力と不処罰の問題
- 性的暴力によってスティグマを負った少女たちが教育への権利を否定されること
- 難民・国内避難民キャンプ内で教育への権利を否定されることによって生じる少女・少年たち、若い女性・男性たちの脆弱性
- 軍事作戦による環境汚染と、それが社会サービスを含むコミュニティに与える影響
- 学校や公共の場など社会的空間における武装警察の存在
- 研究・教育機関における性的暴行

2015年用の資料

CWGL は、テーマの背景を知り、キャンペーンの計画を立てるのに役立つ資料や素材を準備しています。

CWGL はキャンペーン開始の数か月前から、16日間キャンペーンのホームページに資料を掲載する予定です。みなさんは16日間キャンペーン (16days@cwgl.rutgers.edu) に印刷版を請求することができます。参加者のみなさんは私たちのホームページ (<http://16days.cwgl.rutgers.edu>) から資料をダウンロードするか、印刷版を請求してください。

16日間キャンペーンに参加しよう！

16日間キャンペーンは、参加者それぞれの事情に合わせて課題に取り組むことを奨励します。ジェンダーに基づく暴力を永続させる構造を良い方向に変えていくには、何を、どういう相手—政府なのかコミュニティなのか—に対して訴えるべきか、最良の方法は参加者自身が知っているはず。コミュニティやキャンペーンで活動を立ち上げたり、国内外の活動に参加してみましょ。キャンペーンの資料を請求する、16日間キャンペーンのメーリングリストに参加する、また過去の国際キャンペーンの予定表（オンラインで見ることができます）を見るといった作業によって、あなたの活動のアイデアがひらめき、自分の地域での情報を見つけることができるでしょう。ソーシャルメディアを使うときには、ハッシュタグ **#16Days** をつけましょ！

あなたの計画を共有しよう！

グローバルな16日間キャンペーンの運動に参加するために、11月になったら、2015年の国際キャンペーンの予定表で公開するあなたの計画をCWGLに知らせてください。国際キャンペーンの予定表は <http://16dayscwgl.rutgers.edu/campaign-calendar> で見られます。

ホームページを見よう！

16日間キャンペーンに関する情報はホームページ <http://www.cwgl.rutgers.edu/16days/home.html> で見てください。過去の16日間キャンペーンの写真はFlickrから見られます。 <https://www.flickr.com/photos/16dayscampaign>

16日間キャンペーンのメーリングリストに登録しよう！

ジェンダーに基づく暴力に対抗する16日間キャンペーンのメーリングリストに参加しましょ。参加者が、暴力に反対する活動を共有したり、世界の他の人たちと協力関係を築いたり、16日間キャンペーンの戦略やテーマを考える場です。 https://email.rutgers.edu/mailman/listinfo/16days_discussion から登録できます。

16日間キャンペーンについて

女性のグローバル・リーダーシップセンターは1991年の設立以来、ジェンダーに基づく暴力に対抗する16日間キャンペーンのグローバル・コーディネーターをしています。過去25年間、16日間キャンペーンは、ジェンダーに基づく暴力を終わらせるために、地域や国、国際的な場でのアドボカシーや活動の支援をしてきました。ジェンダーに基づく暴力と人権の原則の関係、またジェンダーに基づく暴力が国際人権法に反するものであることを強調するために、女性に対する暴力撤廃デーである11月25日と、世界人権デーの12月10日を選びました。16日間キャンペーンは、世界中で起きている個人やグループ、また制度によるあらゆる形態のジェンダーに基づく暴力の廃絶を訴えるために団結する機会なのです。

チェックしてみよう！

16 Days Website: <http://16dayscwgl.rutgers.edu>

Email: 16days@cwgl.rutgers.edu

International Campaign Calendar: <http://16dayscwgl.rutgers.edu/campaign-calendar>

Flickr: <http://www.flickr.com/photos/16dayscampaign>

Facebook: <http://www.facebook.com/16DaysCampaign>

Twitter: [@16DaysCampaign](https://twitter.com/16DaysCampaign)

¹ Norwegian Refugee Council. *Global Overview 2015: People internally displaced by conflict and violence*. May 2015.

<http://www.internal-displacement.org/assets/library/Media/201505-Global-Overview-2015/20150506-global-overview-2015-en.pdf>

² Internal Displacement Monitoring Center. *Global Figures*. May 2015. <http://www.internal-displacement.org/global-figures>

³ UNESCO Institute for Statistics. *Gender and Education*. <http://www.uis.unesco.org/Education/Pages/gender-education.aspx>

⁴ Education for All Global Monitoring Report (GMR) and UNESCO Institute for Statistics. Policy Paper 14/Fact Sheet 28. *Progress in getting all children to school stalls but some countries show the way forward* June 2014. <http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002281/228184E.pdf>

⁵ Education for All Global Monitoring Report (GMR). Policy Paper 13. *Aid reductions threaten education goals*. June 2014.

<http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002280/228057E.pdf>

⁶ Education for All Global Monitoring Report. Policy Paper 06. *Making Education for All Affordable by 2015 and beyond*. February 2013.

<http://unesdoc.unesco.org/images/0021/002199/219998E.pdf>

⁷ Stockholm International Peace Research Institute. *Trends in world military expenditure, 2014 SIPRI Fact Sheet*. <http://www.sipri.org/media/pressreleases/2015/milex-april-2015>

⁸ Education for All Global Monitoring Report, Policy Paper 10. *Children still battling to go to school*. July 2013. <http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002216/221668E.pdf>

⁹ UNICEF. *Shattered Lives: Challenges and Priorities for Syrian Refugee Children and Women in Jordan*. June 2013.

http://www.unicef.org/mena/MENA-Shattered_Lives_June11.pdf